

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	唐津市立入野小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員が協働して、取り組む体制が整ってきたが、学力向上については、授業改善に力を入れるとともに、低学年からいかに学力を積み上げていくかを検討していく。</li> <li>行事等の見直しを継続しながら、職員一人一人が心身健康に業務にあたることができるように、働き方改革・メンタルヘルスに力をいれていく必要がある。</li> <li>中学校区での学校統合の話合いも始まっているため、統合後のことも考えて、隣接する小学校間で更に情報交換を行い、共通した指導についても考えていく。</li> </ul>
2 学校教育目標	自ら学び、仲間と協働し、地域の未来を創り出す入野っ子の育成
3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>安心・安全な学校（子どもに関わる事故0、感染症対策）</li> <li>学力向上（複式の解消を含めた学力保障）</li> <li>体験活動の充実（『本物に触れる体験』・『感動体験』）</li> </ol>

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価				主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・早期にマイプランを立て、実践ふり返りを定期的に行う。 ・校内研修や学年会で良い実践を紹介したり、情報共有したりする。	A	・校内研究や日々の学年会で、実態把握を図り、学級経営や授業実践について交流を図ることができた。 ・随時、マイプランを確認し、取り組むことができた。	A	・子どもたちは落ち着いて、学習に取り組んでいた。学力向上への取組は今後も継続していく必要がある。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
	○基礎的・基本的な学習内容の定着	○ミニテスト等を継続して行い、学習内容の定着に日々力を入れた教師80%以上	・スキルタイムや授業のはじめに、算数科を中心にミニテストを実施する。 ・個に応じた学習の定着を細やかに把握し、支援や補充をより一層行う。	A	・各学級の実態に合わせ、学習内容を検討したり、補充・支援したりすることができた。 ・個に応じて、特別支援コーディネーターと連携を図りながら学力の定着を図ることができた。	A	・素朴で優しい子どもが多く、6年生の成長も感じられる。	・学力向上対策コーディネーター ・研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳の授業や心の広場(人権集会)で、現状や今後について振り返りができた児童80%以上	・心の広場や学級活動等全教育活動を通して、人権の大切さを伝えていく。 ・道徳の授業実践を重ね、子どもの変容を見取るために道徳ノートを活用する。	A	・「ありがとうの木」に取り組むことで、互いによいところを見つけることもできた。また、互いに支えあって生活していることに気づくことができた。 ・道徳ノートを活用し、授業実践を進めることができた。	A	・校内掲示物からも、全校で心の教育に取り組んでいることが分かる。	道徳教育推進教師 人権・同和教育担当者 各学年主任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○毎月の生活アンケート後、必要に応じて面談を行い、生活協議会で情報共有、早期発見、早期対応した教師100%	・月末に生活アンケートを行い、早期発見のつなげ、気付き等を共有する。 ・毎月の生活指導協議会で共通理解し、組織的に対応する。	A	・生活アンケートをもとに気づいたことをすぐに管理職等に報告して、情報の共有をすることができた。 ・休み時間や放課後等で、気になる子どもたちの様子等を話し、生活連絡協議会で全職員で共通理解ができた。	A	・アンケート後の集約・対応も丁寧に行われている。	生活部 (副)各学年主任
	◎志を高める教育	○体験活動を通して充実感を味わい、地域に目を向けたり、いろいろな職業に興味をもった児童80%以上	・体験活動を通して地域についての学習を深め、キャリア教育を充実していく。 ・地域の人材バンクを活用し、郷土について学ぶ体験活動を整備していく。	A	・地域の人材バンクを活用したり、福祉について体験学習をしたりすることで、いろいろな方の生き方を知り、自分の生き方に目を向けることができた。	A	・にあんちゃん学習や豆腐づくりなど、地域のよさを生かした学習を今後も大切にしてほしい。	特活部 (主)教務主任 (副)各教科主任
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒90%以上 ○朝食を採って登校する児童90%以上。	・年に2回の「お弁当の日」を活用して、元気に学校に来るためには食事をバランスよく取る事が大切であることを意識づける。 ・よい子のくらし点検の項目に「朝食」に関してあげることで、朝食を食べてこようとする意識を高める。	A	・第2回のお弁当の日は、ほとんどの児童が第1回よりもレベルアップした弁当を作ることができた。 ・「健康に食事は大切である」と考える児童90%以上を達成することができた。 ・よい子のくらし点検では、朝食の欄を設け意識を高めることができ、「朝食を採って登校する児童90%以上」を達成することができた。	A	・年に2回のお弁当作りが定着しており、親子のふれあいによい。 ・「健康に食事は大切である」と考えさせていく必要がある。 ・食事の内容についても考えさせていく必要がある。	食育推進担当者 保健主事 栄養教諭 学校栄養職員 食育推進担当者
	○外で体を動かすことを楽しむ児童の育成	○縦割り活動やマラソンタイムなどを含め、休み時間等に外や体育館で体を動かした児童70%以上	・放送委員会など、児童による呼びかけも行い、天気の良い日は外で過ごす学校全体の雰囲気も醸成している。 ・たてわり班活動などで、外で遊ぶ活動を多く取り入れるようにする。	A	・涼しくなるにつれて外遊びをする児童は増え、おおむね80%以上の児童が外遊びを好んでいた。児童はサッカーや鬼ごっこなど楽しんで遊んでいた。寒い日も外で遊んでいる児童は多かった。	A	・寒い日も元気に外で体を動かしている姿が見られる。 ・たてわりのドッジボール大会でも、なかよく体を動かしていた。	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・互いに声を掛け合い、退勤目標時間を意識して業務に取り組む。 ・業務効率化につながるアイデアを出し合い、時間を生み出す努力を続ける。	A	・時間外年間360時間以内を意識して、出退勤できるようになった。 ・会議等も時間を意識し、効率よく進むようになった。	A	・年間360時間以内という具体的な数値目標をもって、取り組まれていることがすばらしい。	管理職
	○職員の連携強化による計画的な業務推進	○時間を意識し、連携して業務に取り組めた職員の割合80%以上	・行事等への取組後の振り返りを共有し、次に向けた改善点を明確にする。 ・各部で提案内容を検討し、見直しをもって業務に取り組めるようにする。	A	・職員が連携し、チームを意識して業務を進めることができた。 ・校時程や会議の設定等、次年度のスタートに向けて準備を始めることができた。	A	・職員室で先生方が日常的に話し合いながら、仕事を進めているところがよい。	管理職

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価				主な担当者
評価項目	重点取組内容		具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○特別支援教育	○特別支援教育校内体制の再構築	○2学級となった支援学級の違いを理解し、交流学級や学校全体での活動に積極的に関わった職員80%以上	・毎月1回の校内研修を行い児童の共通理解や特別支援教育への理解を深める。 ・特別支援に関する研修会を演習を含めた形式で実施する。	A	・SSWやSCとの連携を図り、支援方法について話し合い職員間で共有することができた。 ・校内研修では、職員も積極的に参加し学ぶことができた。	A	・配慮が必要な児童への対応について、現状を知ることができた。	特別支援教育コーディネーター
○安心・安全な学校づくり	○学校からの細やかな情報発信と、安全教育の充実	○細やかな情報発信を行った教師80%以上 ○各種避難訓練を振り返り、改善点を考えた教師80%以上	・組織で対応できるように、日頃から報告・連絡・相談を行う。 ・体験的に学習させ、ふり返りを充実させることで、しっかり身につけさせる。	A	・各学級、児童の学級での様子を学級通信等で配信し、職員室で情報交換もさかんに行われている。 ・避難訓練では、出火場所を確かめて避難する児童の姿が見られた。	A	・学校だよりやケーブルテレビ等で紹介される児童の活躍を楽しみにしている。	・生活部 ・教頭
○小小連携・小中連携の推進	○学校統合を視野に入れた小小連携・小中連携	○中学校区における各部会の取組を整理し、積極的に取り組んだ教師80%以上	・互いの授業参観等を継続し、情報共有を図るとともに、中学校区での取組を継続していく。統合を念頭におき、各部会を中心に共通の取組を増やしていく。	A	・公開授業を互いに参観し、情報を共有し、1人1台端末活用を進めることができた。 ・中学校区で協力して、統合に向けた情報収集、準備を進めることができた。	A	・学校統合に向けて、連携して準備を進めていく必要がある。	・小小連携担当 ・幼小連携担当 ・教務主任

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力向上については、学習状況調査の分析や学力検査の結果をもとに、低学年から基礎的・基本的な学力を積み上げていく。</li> <li>時間外勤務時間の上限を意識して出退勤できるようになった。校時程や行事等を見直し、職員が働きやすく、児童とじっくり関わることができる環境を整備していく。</li> <li>学校統合に向けて、土台となる児童間のつながりを深めるとともに、小学校間で綿密に情報交換を行いながら、準備を進めていく。</li> </ul>
--------------------	--